2．黄体ホルモンによる循環器形発生に関する研究

東京大学附属病院分院産婦人科
小　林　拓　郎

黄体ホルモンを含め，妊娠中，どのような薬物を，どの位の頻度で妊婦が使用しているか，先に48年度東大分院産科に於て分娩した200例を対照として調査を行なったが，今回は，昭和50年度分娩全390例より200例を選び出し，薬物．X-Pに加えて妊娠中罹患し易い疾患及び外科的操作を合わせて調査を行なった。その結果を次頁の表に示す。

なお，妊娠第Ⅰ期とは妊娠1ケ月～3ケ月
〃 第Ⅱ期　〃　4ケ月～7ケ月
〃 第Ⅲ期　〃　8ケ月～10ケ月
とした。又妊娠貧血とは，当科に於てはヘモグロビンで11.0g／dl未満と定義している。

表の例数の半分がパーセントになるが，前回の黄体ホルモン使用例32％に対して今回は17％特に3ケ月以内14.5％に比し，今回は7％と約半数に減少している。

心奇形（主として大血管転移症）と特に関係を疑われている妊娠ごく初期のいわゆる妊娠テスト目的に用いられた思われる例は1例のみで，今後この目的の使用は免疫学的妊娠診断の普及進歩によりなくなると思われる。

前回と同様，今日において黄体ホルモン使用例においてはいずれも心奇形その他の奇形は認める事は，できなかった。

なお，今回の調査で，栄養剤投与が無し，鎮静鎮吐剤投与はかってサリマイドが問題となったが1例のみで，これは薬物に対する心配というよりもむしろ，重症の妊娠悪阻そのものが非常に少なくなった結果と考えられる。

	妊娠第Ⅰ期	妊娠第Ⅱ期	妊娠第Ⅲ期	妊娠Ⅰ～Ⅲ期
切迫流産	18例	15例	1例	25例
感染症	9	25	6	40
糖尿病	1	1	1	1
妊娠貧血	7	46	105	105
妊娠中毒症		3	35	35
腟炎	5	9	6	14
その他疾患	1. てんかん	2.てんかん＋梅毒	3. S.L.E	
薬物				
黄体ホルモン	14	20	4	34
抗生物質	3	7	8	16
栄養剤	0	0	0	0
鎮静鎮吐剤	1	0	0	0
腟錠	4	10	6	14
造血剤	0	31	114	114
利尿降圧剤		4	34	38
感昌剤	7	13	2	20
外科操作		3（2例ポリープ切除　1例シロッカー手術）		
X－P		1	45	46
その他の薬剤	4	4	4	4

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

黄体ホルモンを含め,妊娠中,どのような薬物を,どの位の頻度で妊婦が使用しているか,先に 48 年度東大分院産科に於て分娩した 200 例を対照として調査を行なったが,今回は,昭和 50 年度分娩全 390 例より 200 例を選び出し,薬物.X-P に加えて妊娠中罹患し易い疾患及び科的操作を合わせて調査を行なった。